複合領域科目1-81「良心学」第2回

# 新島襄と良心 - その生涯をたどる —

#### 同志社をどのように案内する?

- 「同志社」という名前の由来は?
- なぜ、ここにあるのか?
- •建物の特徴:西門から正門まで。「良心碑」とは?





### 読みやすい参考文献

- 本井康博
  - 『新島襄と建学精神――「同志社科 目」テキスト』、2005年(定価500 円、生協書籍部、同志社エンタープ ライズで販売)。
- 本井康博「新島襄を語る」シリーズ (全10巻)



## マンガ・DVD

- 能田茂(著),本井康博(監修)『マンガで読む新島襄』 (日・英・韓)同志社大学。
- NHK大河ドラマ「八重の桜」DVD BOX(3集)







# 

#### ハリス理化学館 同志社ギャラリー



## 新島 襄の生涯

• 「良心」を考えるロール・モデルとしての新島 襄

• 第 1 ステージ: 「新島 七五三太 (しめた)」の時代

• 第2ステージ: 「ジョゼフ・ニイシマ」の時代

第3ステージ:「新島襄」の時代

#### 第1ステージ

「新島 七五三太」の時代

1843~1864年

## 新島の誕生

- 1843年、江戸の安中藩邸で生まれる。
  - •上州(群馬県)系江戸っ子
  - •21歳まで藩邸内で暮らす。

## サムライの子として

- 父・民治は安中藩士、職務は祐筆(書記)
- 新島は「サムライ」の子。「サムライ」として の自己理解を持つ。
- 藩邸での生活
  - 一辺が約125メートルのほぼ正方形の中

#### 旅の経験(1)

- •安中への旅
- 1861年、19歳のとき
- •藩主の護衛として

#### 旅の経験(2)

- 玉島 (現在の倉敷市) への航海
- 1862年、20歳のとき
- 自由を満喫する。
- 「家出」「脱国」願望が高まる。

## 密出国への刺激を与えた書物(1)

- 『連邦志略』
- 中国に派遣されていたアメリカ人宣教師(ブリッジマン)が漢文で書いた。
- 大統領選挙を知り「脳がとろけ出そう」になる ほど驚嘆。

#### 密出国への刺激を与えた書物(2)

- 『ロビンソン・クルーソー物語』
- 「冒険」への野望を駆り立てられる。
- その他の書物
- キリスト教にも触れる。

## 密出国(1864年)

- 快風丸への乗船
  - 出港準備は一週間。
  - 一年間の函館留学が名目。

## 函館から上海へ

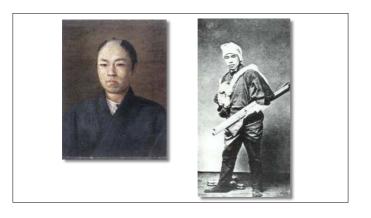
- •ニコライ神父(ハリストス正教会)との出会い
- ベルリン号(セイヴォリー船長)に乗船。











## 上海からボストンへ

- 上海からボストンへ
  - ワイルド・ローバー号(テイラー船長)に乗船
  - ・太刀を船長に船賃として渡し、小刀は買っても らった(漢訳聖書を

買うため)。



# 第2ステージ

#### 「ジョゼフ・ニイシマ」の時代

1865~1874年



#### ボストンへ

- テイラー船長との出会い
- •新島を「ジョー」(Joe)と呼ぶ。
- ・ボストン到着後(1865年7月)、船主のハーディーに新島を紹介する。

# ハーディーとの出会い

- ハーディー宛の手紙
- ハーディーは新島の名前を「ジョー」 から「ジョゼフ」に改称する。
- 以降、新島は Joseph Neesima と自称する。



## アメリカでの学び(1)

- •フィリップス・アカデミー時代
  - 1865~1867年。
  - 1866年、アンドーヴァー神学校付属教会で洗礼を受け、クリスチャンになる。

## アメリカでの学び(2)

- アーモスト大学時代
  - 1867~1870年





## アメリカでの学び(3)

- アンドーヴァー神学校時代
  - 1870年~1874年
  - アメリカン・ボードと一体の学校。
  - 在学中「岩倉使節団」と出会う。
  - 一年間、休学してヨーロッパへ。

## ヨーロッパ視察

- 教育視察
- 木戸孝允、田中不二麿らと出会う。
- ベルリンで報告書作成
  - •後に文部省から『理事功程』として出版される。

### 宣教師として帰国

- 準宣教師に
  - 1874年、アメリカン・ボードから任命される。
- 帰国前の改称
  - Joseph Hardy Neesimala

## ラットランド演説

- キリスト教の学校を
  - 日本にキリスト教の学校を作りたいという涙ながらの訴えをする。
  - •5000ドルの献金を得る。これが同志社の開校資金となった。

第3ステージ

「新島 襄」の時代

1874~1890年

#### 帰国

- 名前の日本表記
- 在米中、「約瑟」(ジョゼフ)
- ・新島譲 → 新島襄
- 安中でキリスト教伝道
  - 安中教会の誕生、湯浅治郎の働き

#### 大阪へ(1875年)

- 大阪のゴードンのもとへ
  - 神戸のデイヴィスの賛同を得て、キリスト教学 校設立を目指す。
- 大阪での挫折
  - 学校設立が頓挫する。

### 京都での出会い

- ・山本覚馬 との出会い
  - 「私塾開業願」を府に提出
  - 新島と山本が発起人
  - 山本が「同志社」と命名



## 京都での開校

- 同志社英学校の設立
  - 1875年11月29日(教師2名、生徒8名)
  - 現在の「新島旧邸」「新島会館」の場所
- 翌年正月、山本八重と結婚
  - 八重は戊辰戦争の際、会津若松城に篭城し「西軍」と戦闘







## 今出川校地の始まり

- 1876年、校地を移転
- 同志社への攻撃
- 仏教徒や保守的な市民からの激しい攻撃
- 「熊本バンド」の入学



## 新島の晩年の関心(1)

- 教会合同運動
  - 長老派と会衆派の合同運動に対し、新島は批判的な立場を取った。

## 新島の晩年の関心(2)

- 同志社大学設立運動
  - ・キリスト教主義に立脚する総合大学を設立する ことは、新島の「宿志」であった。
  - 募金運動、欧米旅行
  - 1886年、宮城英学校(同志社の分校)を設立。

#### 新島の最期

- 1889年、関東での募金活動
  - 前橋で倒れ、神奈川県大磯で療養。
- 1890年1月23日死去(46歳)
  - 「尚壮図を抱いてこの春を迎ふ」





# 新島の葬儀

- •生徒たちの出迎え
  - 新島の遺体が京都駅に着くのを深夜まで待つ。
- 若王子の墓地へ
  - •葬儀の後、生徒たちは、若王子山頂の墓地まで 棺を交互に担いでいく。



